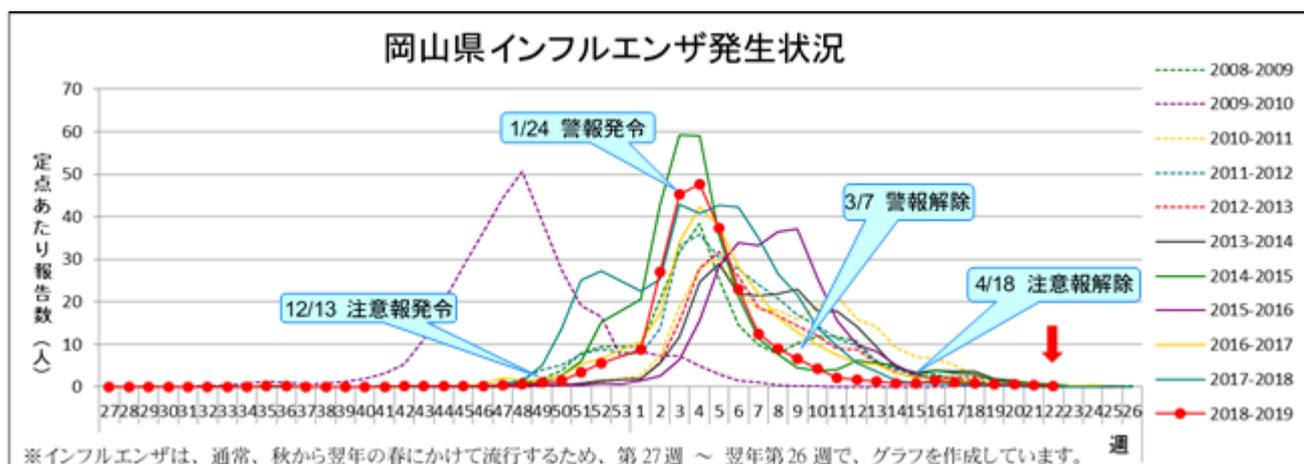


岡山県 インフルエンザ発生状況

(2018/2019 年シーズン流行のまとめ)

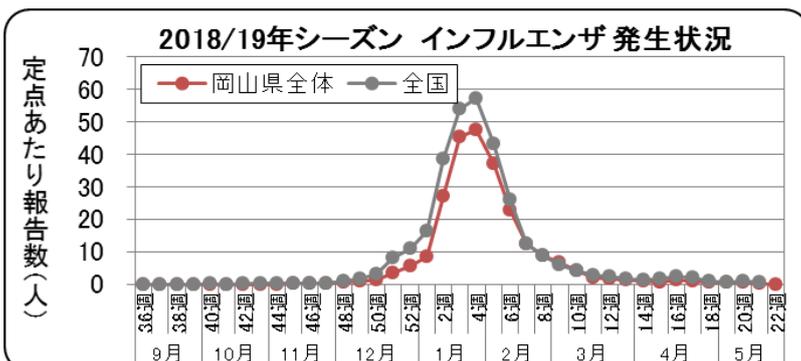
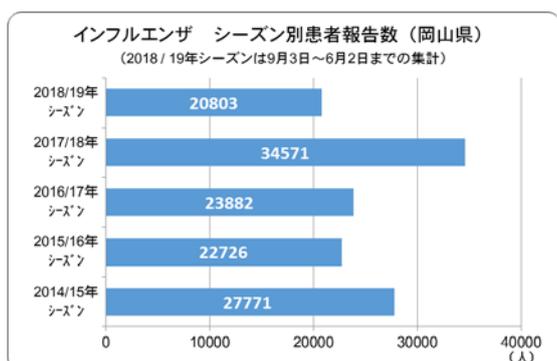


2018 / 2019 年シーズン(2018/9/3～2019/9/1)のうち、2019 年 6 月 2 日までの岡山県におけるインフルエンザの発生動向をまとめました(県内 84 定点医療機関報告)。

今シーズン、岡山県の患者報告数は、20,803 人となり、過去 5 シーズンで最も少ない報告数となりました。2018 年第 36 週(9/3～9/9)に初めての患者が報告されてから、散発的に患者が発生しました。第 49 週(12/3～12/9)には定点あたり 1.17 人となり、岡山県の注意報発令基準である定点あたり 1.00 人を上まわったことから、12 月 13 日に「インフルエンザ注意報」を発令しました。過去 10 シーズンで 4 番目の早さで流行期に入り、その後、流行が拡大しました。

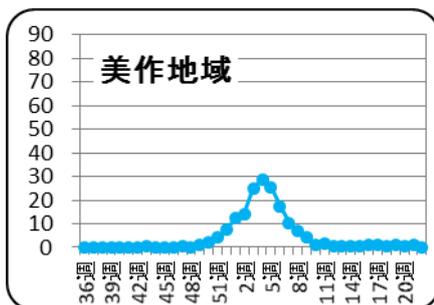
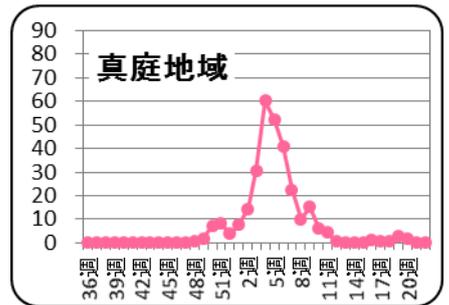
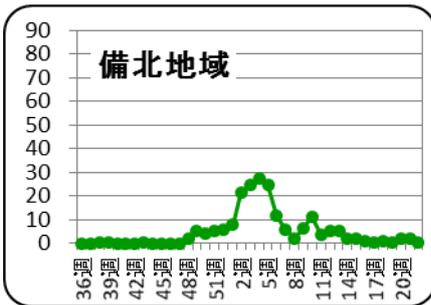
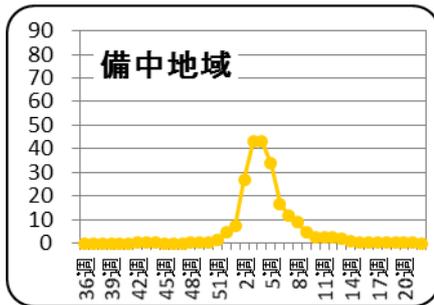
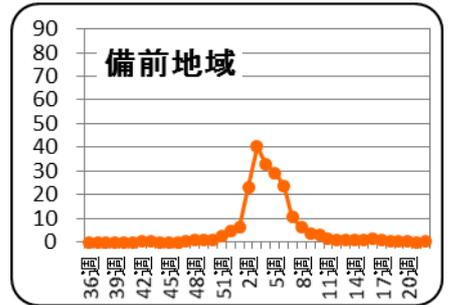
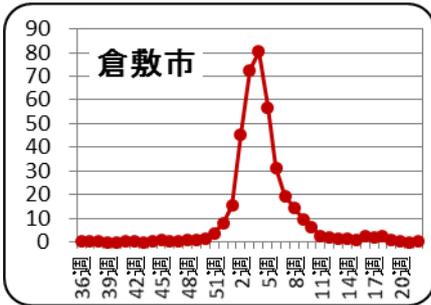
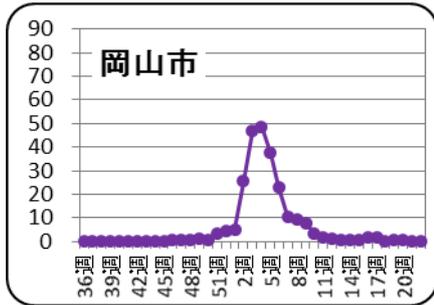
2019 年第 3 週(1/14～1/20)には定点あたり 45.33 人となり、警報発令基準の 30.00 人を上まわったため、1 月 24 日に「インフルエンザ警報」を発令し、さらなる注意喚起をはかりました。第 4 週をピークとし、それ以降、患者数は減少に転じました。なお、第 4 週の定点あたり報告数 47.56 人は、過去 10 シーズンの中で、2014-15 シーズンの 59.21 人(第 3 週)および 58.98 人(第 4 週)、2009-10 シーズンの 50.65 人(第 48 週)に次いで 4 番目に多い報告数でした。その後、第 8 週(2/18～2/24)には 9.00 人、第 9 週(2/25～3/3)には 6.65 人と、2 週連続して定点あたり 10.00 人を下まわったため、警報から注意報に切り替えました。4 月上旬の第 14 週(4/1～4/7)には 0.94 人、第 15 週(4/8～4/14)には 0.88 人と、2 週連続して定点あたり 1.00 人を下まわったため、県内に発令していた「インフルエンザ注意報」を 4 月 18 日をもって解除しました。しかし、注意報解除後の 16 週(4/15～4/21)および 17 週(4/22～4/28)の 2 週で定点あたり 1.00 人を再び上回りました。その後、患者数は徐々に減少し、第 22 週は定点あたり 0.13 人となり、今シーズンの県内のインフルエンザの流行は、終息したと考えられます。

全国では、2018 年第 49 週(12/3～12/9)に定点あたり 1.70 人となり、全国的な流行の指標である 1.00 を上回りました。その後、2019 年第 2 週(1/7～1/13)に 38.54 人、第 3 週(1/14～1/20)に 53.91 人、第 4 週(1/21～1/27)に 57.09 人と急増し、流行のピークを迎えました。2019 年第 4 週のインフルエンザ定点当たり報告数は、現行の監視体制となった 1999 年 4 月以降最多となりました。以降、患者数は減少しましたが、第 16 週(4/15～4/21)には再び定点あたり報告数が前週の 1.67 人から 2.54 人に増加し、その後、患者数は若干の増減を繰り返しつつ減少しました。



1. 地域別発生状況

地域別でみると、2018年第36週(9/3～9/9)頃から、散発的に患者が報告され始め、岡山市及び倉敷市を中心に流行が拡大していきました。第51週(12/17～12/23)には、報告数が少なかった備前地域でも流行開始の指標値(定点あたり1.00人)を超え(0.67 → 2.47人)、県内全域で流行期に入りました。その後、患者は増加をつづけ、各地域のピーク時の定点あたり報告数は、岡山市48.64人(第4週)、倉敷市80.44人(第4週)、備前地域40.40人(第3週)、備中地域43.00人(第3週および第4週)、備北地域27.50人(第4週)、真庭地域60.33人(第4週)、美作地域28.50人(第4週)でした。各地域とも、第3～4週(1/14～1/27)をピークに、わずかに増減を繰り返しながら減少しました。



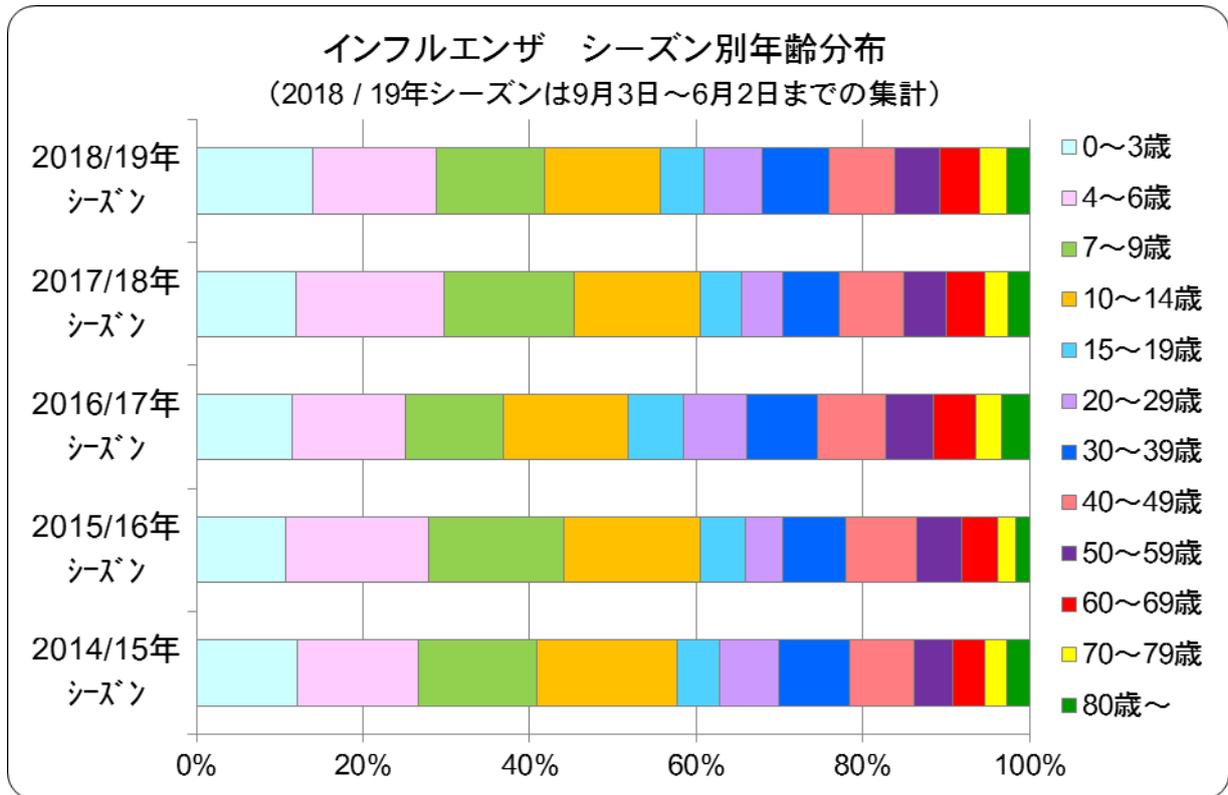
※感染症発生動向調査は、岡山県を7つのブロックに分けて情報収集しています。



- ・岡山市
- ・倉敷市
- ・備前地域(オレンジ)
- ・備中地域(黄)
- ・備北地域(緑)
- ・真庭地域(ピンク)
- ・美作地域(青)

2. 年齢別発生状況

年齢別割合は、4～6歳(15%)、0～3歳および10～14歳(各14%)、7～9歳(13%)の順で多かったです。0～14歳ではほぼ同程度の割合でした。昨シーズンと比較して、15歳以上の年齢層の割合が増加しました。



※インフルエンザシーズンは、第36週から翌年第35週までを1シーズンとして集計しています。

3. インフルエンザウイルス検出状況

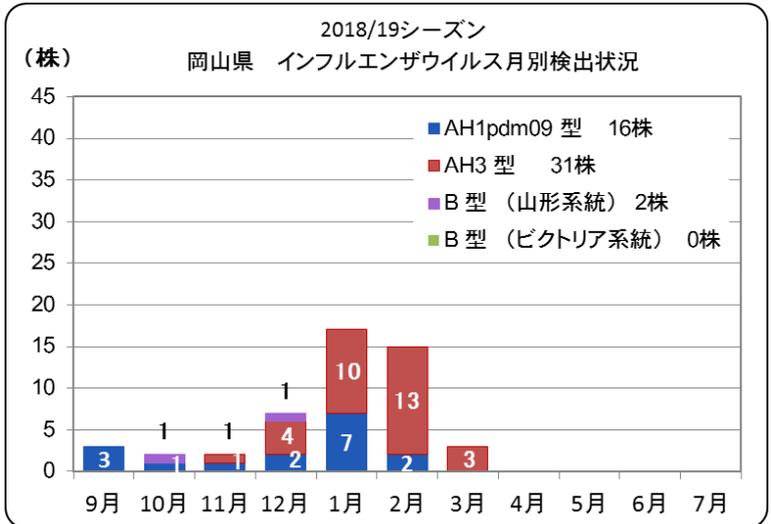
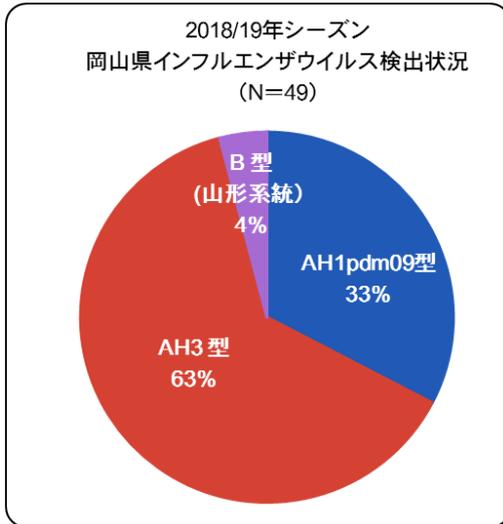
今シーズンのうち、2019年6月2日までに岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルス59株の検出割合は、AH3型36株(61%)が最も高く、次いでAH1pdm09型16株(27%)、B型(ビクトリア系統)5株(9%)、B型(山形系統)2株(3%)でした。昨シーズンは、A型とB型がほぼ並行して流行する形でしたが、今シーズンは、A型が主流で、シーズン初めはAH1pdm09型、その後はAH3型が流行しました。

月別検出状況は、AH1pdm09型が9月から検出され始めました。AH3型は11月後半から検出され始め、1月下旬までは、AH1pdm09型とAH3型の2種類のA型がほぼ並行して流行する形となりました。2月に入ると、AH3型の検出数が多くなりました。なお、B型については3月～4月にビクトリア系統の流行が見られました。

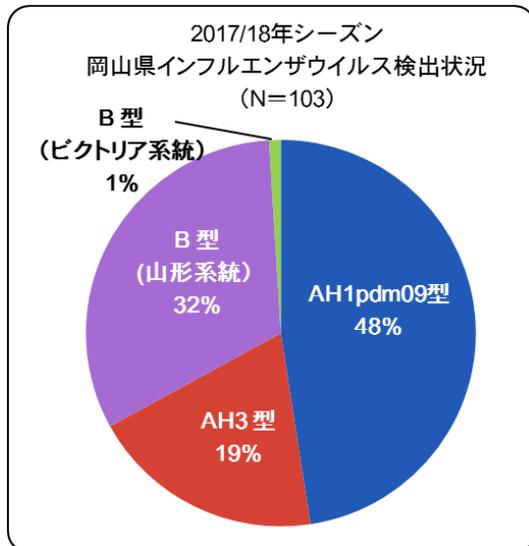
全国で今シーズン検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型4,154株(57%)、AH1pdm09型2,806株(39%)、B型312株[ビクトリア系統267株、山形系統40株、系統不明5株](4%)の順でした。昨シーズンは、A型とB型がほぼ同程度流行しましたが、今シーズンは、1月初旬までは2種類のA型(AH1pdm09型およびAH3型)がほぼ同程度流行し、1月中旬以降はAH3型が主流となりました。また、3月下旬からB型(ビクトリア系統)が増え始め、B型は5月中旬まで検出が続きました(2019年6月4日現在)。

[インフルエンザウイルス分離検出状況 \(国立感染症研究所\)](#)

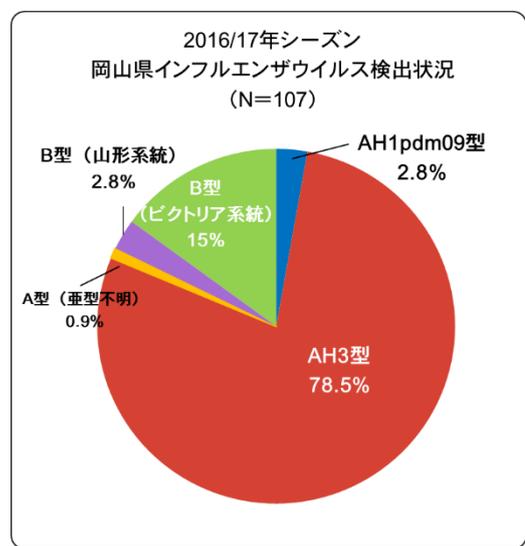
【2018/19年シーズン】



【2017/18年シーズン】

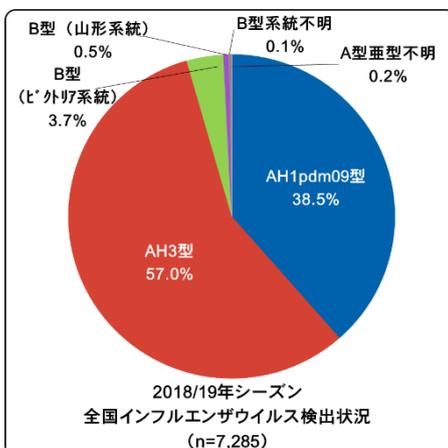


【2016/17年シーズン】

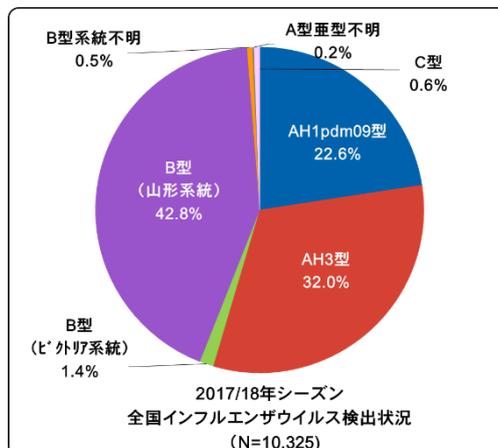


<全国のインフルエンザウイルス検出状況>

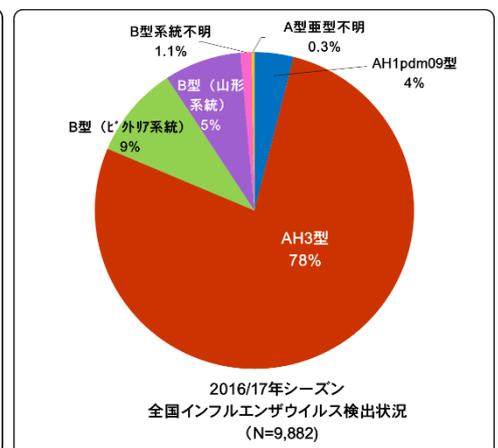
【2018/19年シーズン】



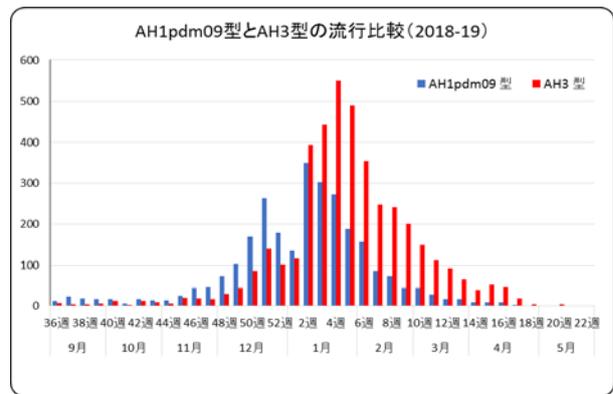
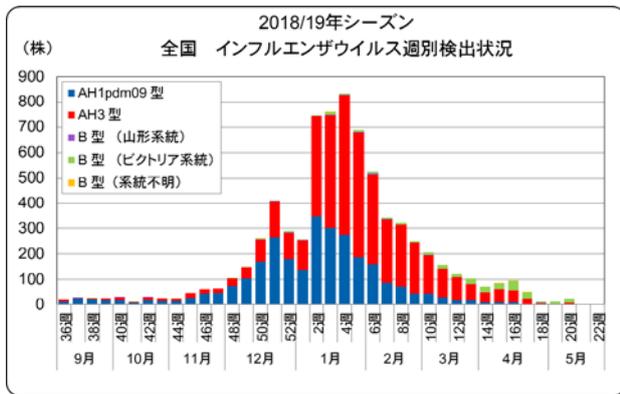
【2017/18年シーズン】



【2016/17年シーズン】

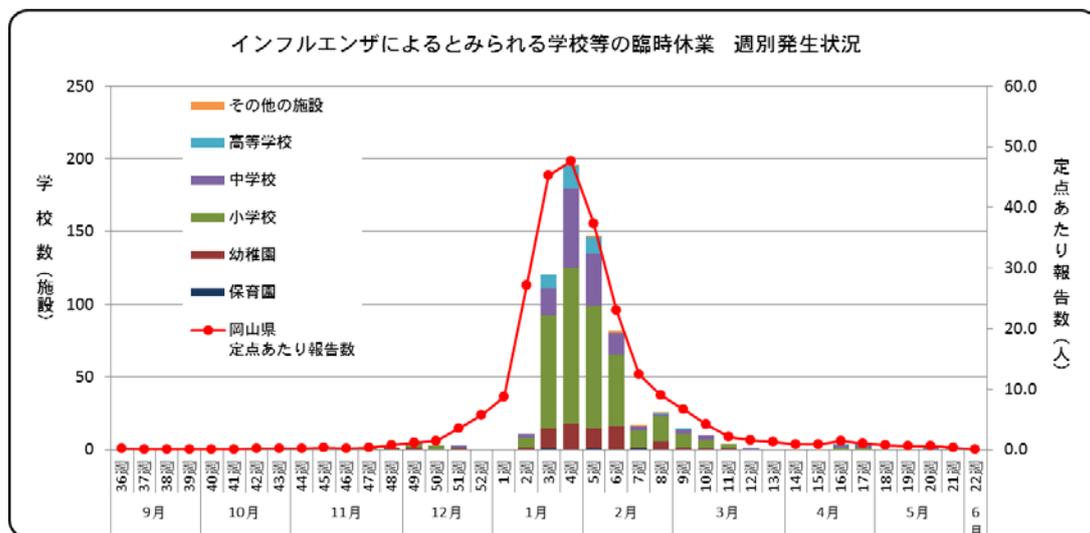


2018/19年シーズンは
2019年6月4日現在



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

今シーズン(2018/9/3～2019/9/1)のうち、2019年6月2日までのインフルエンザによるとみられる臨時休業は660施設で、昨シーズン(1,093施設)より減少しました。施設別では、保育園3施設、幼稚園80施設、小学校383施設、中学校147施設、高等学校40施設、その他7施設でした。初発は2018年9月26日で、昨シーズン(11月27日)より早い報告となり、今シーズンのピークには1週間に196施設の報告がありました。



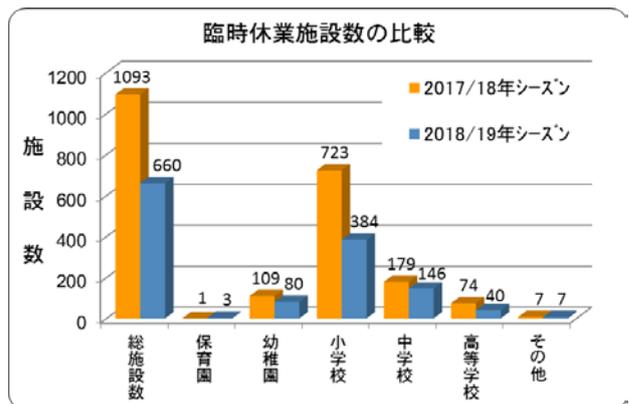
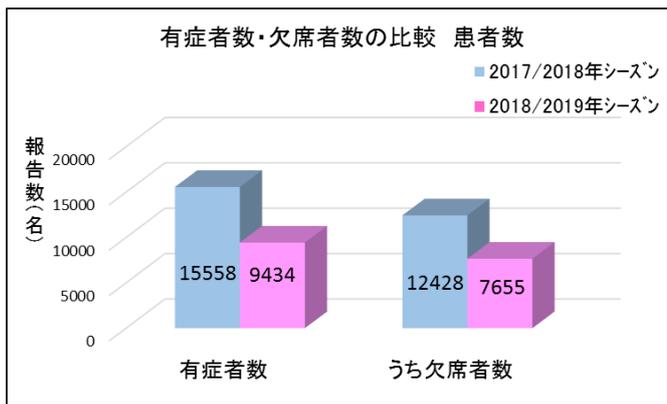
1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

地域名*	有症者数	うち欠席者数	施設数合計	休園・休校	学年閉鎖	学級閉鎖	初発年月日
岡山県全体	9,434	7,655	660	11	154	495	H30.9.26
岡山市	4,042	3,226	261	—	23	238	H30.9.26
倉敷市	2,078	1,779	144	1	23	120	H30.11.12
備前地域	773	663	63	1	25	37	H31.1.10
備中地域	1,255	1,052	107	2	38	67	H30.12.13
備北地域	183	136	15	1	10	4	H31.1.15
真庭地域	268	200	15	2	9	4	H31.1.17
美作地域	835	599	55	4	26	25	H30.12.6

2) 臨時休業施設数の内訳 累計:660施設

	保育園	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他
施設数	3	80	383	147	40	7



5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点5医療機関による報告）

今シーズン(2018/9/3～2019/9/1)のうち、2019年6月2日までのインフルエンザによる入院患者数は、266名であり、昨シーズン(276名)とほぼ同程度となりました。週別では、第3週(1/14～1/20)に入院患者数が60名となり、1週間で報告されたインフルエンザによる入院患者数としては、入院サーベイランスが開始された2011年以来最多となりました。今シーズンの80歳以上の入院患者数は、107名であり、入院患者数全体の40%を占め、昨シーズン(87名、31%)より増加しました。

また、今シーズンのインフルエンザ脳症(第5類感染症の全数把握対象疾患である急性脳炎)の届出において、病原体としてインフルエンザウイルスの記載があるものの報告は、岡山県では今シーズンは3名(2016/2017シーズン:3名、2017/2018シーズン:4名)と、例年どおりの報告数となりました。全国では221例が報告され、過去2シーズンの同期間の報告数(2016/2017シーズン:111例、2017/2018シーズン:166例)を上回っていました。

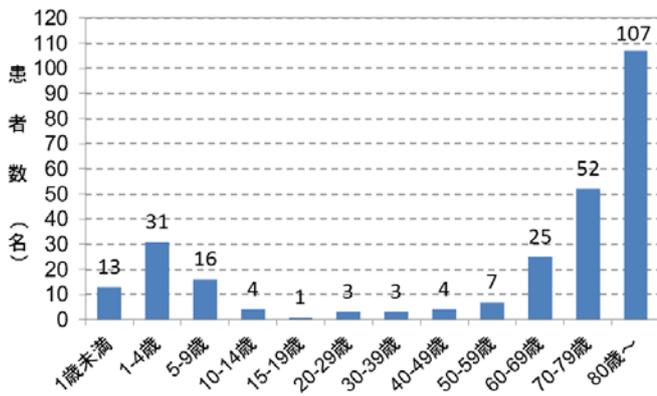
岡山県では今シーズンのインフルエンザ脳症はすべてインフルエンザA型を病原体とするものであり、全国においても、インフルエンザA型を病原体とするものが87%を占めていました。

【2018 / 2019年シーズン(2018年9月3日～2019年6月2日)までの入院した患者の累計数】

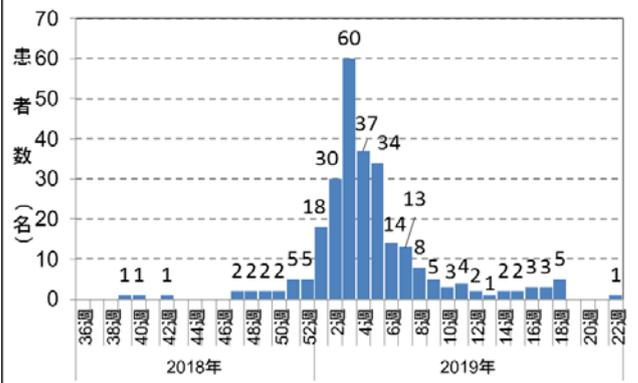
年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	13	31	16	4	1	3	3	4	6	25	53	107	266
ICU入室		2						1		1	3	2	9
人工呼吸器の利用		2						1		1	1	8	13
頭部CT検査(予定含)		4	1			1				4	5	8	23
頭部MRI検査(予定含)	1	5	3	1	1			1			4	1	17
脳波検査(予定含)	1	1	1										3
いずれにも該当せず	12	22	11	3		2	3	2	6	20	44	93	218

* 重複あり

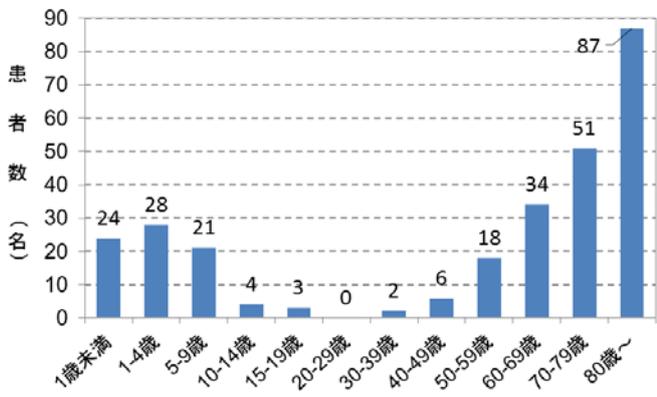
2018/19シーズン 年齢別入院患者数



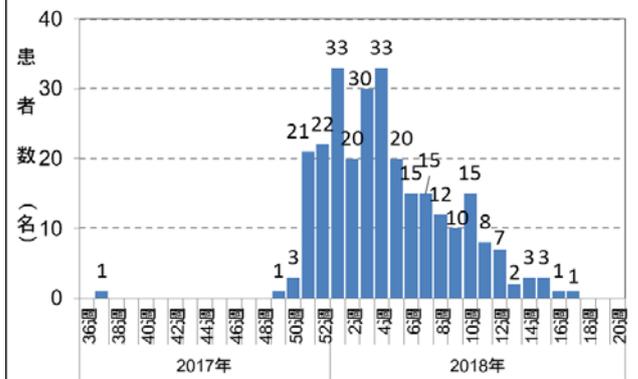
2018/19シーズン 週別入院患者数の推移



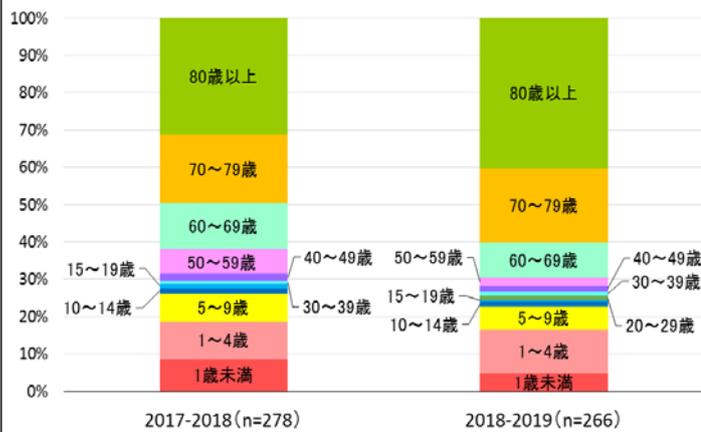
2017/18シーズン 年齢別入院患者数



2017/18シーズン 週別入院患者数の推移



インフルエンザによる入院患者の年齢階級別比較



(名) シーズン別インフルエンザ脳症報告数推移(全国)

